

大阪観光局(DMO)の推進に関するトップ会議 議事概要

日 時：令和2年1月25日(土) 13:00~13:50

場 所：大阪商工会議所6階 白鳳の間

出席者：吉村 大阪府知事、松井 大阪市長、尾崎 大阪商工会議所会頭、
松本 関西経済連合会会長、池田 関西経済同友会代表幹事、
福島 大阪観光局会長、溝畑 大阪観光局理事長

議題： 国際観光都市・大阪をめざして

【挨拶】

■福島 大阪観光局会長

- 昨年は6月にG20大阪サミットが開催され、大阪の魅力を全世界に発信できたし、ラグビーワールドカップ、ツーリズムEXPO ジャパンでは15万人のお客様にお越しいただき、大阪の観光魅力を国内外に発信できたのではないかとということで、元気な一年だったと思っている。今年のオリパラを挟み、WMG(ワールドマスターズゲームズ)、2025年大阪・関西万博、IRの誘致と、ビッグプロジェクトが目白押し。私も成功と実現に向け、みなさんと一緒にがんばっていきたいと思っているのでよろしく。
- 私からは2点、インバウンド活性化と、MICEの推進について。
インバウンドについては、昨年の来阪外客数、来阪外国人旅行消費額ともに前年を上回る見込み。関係者の皆さんに感謝申し上げたい。観光は大阪の基幹産業となっており、今後はいかに持続的に成長させるか。お客様のニーズは多様化しているので、量から質への転換、マーケティング力の強化をはかり、満足度向上、観光客一人あたりの消費額向上をいかに図っていくかだと思っている。歴史、文化はもとより、食、スポーツ、ウエルネス、ナイトエンターテイメント、体験型のコンテンツなどに磨きをかけるとともに、欧米豪の富裕層の誘客に本格的に取り組んでいく。広域周遊では、関西全域、北陸、九州などと連携を深めるとともに、万博、IR、インバウンド6,000万人時代を見据え、関西国際空港の機能強化、欧米からの便が増えてきているが、増便や発着回数的大幅増など、空港の機能強化をサポートしていけたら。
- MICE推進については、大阪府、大阪市、経済団体などオール大阪で取り組み、成果が上がりつつあるが、今後の誘致に関する都市間競争に打ち勝っていくためには2つ課題があると思っている。
ハード面ではIR、夢洲に国際競争力のあるオールインワンMICEが謳われているので、大きく前進すると期待している。
誘致というソフト面では、観光局で頑張っているが、人材や財源等に課題がある。IR開業を見据え、MICE戦略の策定、これは誘致機能の強化、推進体制、人材確保、財源等があるが、これについて皆様方やIR事業者と意見交換しながら強化を図っていきたいと思っているのでよろしく。
- いろいろ申したが、これらは観光局だけでできるものではない。皆さんの支援・協力

をいただきながら、世界有数の国際都市・大阪が実現できるよう頑張っていきたいのでよろしく。

【資料説明】

- 溝畑 大阪観光局理事長
(資料に沿って説明)

【出席者からの主な意見】

- 尾崎 大阪商工会議所会頭

- 昨年は日韓関係が悪化したことで韓国からの旅行者が減ったが、それを補ってなお余りある、中国やその他の国からのインバウンド観光客に来てもらえて非常によかったのではないかと考えている。また、消費単価も上がったということで、溝畑理事長、福島会長はじめ、大阪観光局の関係者の皆様にはよくやっていただいたと感謝している。先ほどの説明にあったように、LGBTやSDGsなど、将来へ向けて新しい方向へ大阪の観光を引っばっていつてくれているのも良いことと思う。今年はオリパラがあるが、来年以降、WMG、万博、IRなど、大阪では世界からお客さんを惹きつけるものが出てきている。これを追い風にして、観光産業を発展させていきたいと思う。
- 大阪商工会議所としては、食について、観光局と一緒に「食創造都市 大阪推進機構」を立ち上げ、大阪の食のブランディング、大阪が世界の食の都となることを目指していきたい。世界に、特に富裕層に対し、大阪にはたこ焼き・お好み焼きなどのコナモンだけでなく、いい食材があるし、すごい料理人もいるし、大阪の人は舌が肥えているということを発信していき、世界が認める食の都市にしたいと考えている。
- スポーツについては、今年のオリンピックでは東京は大混雑すると思うので、出入口を閑空にして、大阪・関西に来て宿泊していただき、場合によってはスポーツをしていただく機会を提供する。そういったことを、2021年のWMGの宣伝やお客さんを惹きつける要因としたい。ラグビーでせっかく来ていただいたので、スポーツ関係の人にもぜひ見てほしい。大阪商工会議所は『スポーツハブ関西』としてスポーツ産業を育成していこうとしているので、そういうところにもスポーツ関係者にも来ていただいて、関西の持っているスポーツをサポートするインダストリーの力も見てもらえたらよいと考えている。
- IRを大阪にぜひ誘致して、MICE、世界の様々な会合やイベントが大阪でできるように、経済界もぜひ強力にサポートしたいと思っている。そこで様々な人の交流が起きることにより、新たなビジネスにつながる。是非、業界の大会や学会を大阪で実施していただきたい。そういったことも観光局と一緒にやっていきたい。
- よく言っているが、大阪は外国人や旅行客を惹きつけるポテンシャルがあると思うが、一番のアセットは人懐っこさ、人を受け入れることだと思うので、そういう気持ちをさらに豊かにする啓発活動もしてほしい。

■松本 関西経済連合会会長

- 関西が日本の中心となってインバウンドをリードしていこうということを大阪観光局が戦略的に進めていることを力強く聞いていた。インバウンドについては、政府は2020年に訪日客3,000万人、消費額8兆円を目標に掲げている。関西でも2020年で3,000万人の45%だから1,800万人、消費額についても3兆円にするという目標がある。関西の目標実現のためには大阪府・大阪市をエリアとする大阪観光局と、2府8県をエリアとする関西観光本部が力を合わせ効率的に事業していく必要がある。関西観光本部が実施する台湾大阪商工会議所商談会の出展や、ファミトリップを共同で実施し、2020年度においてもさらなる連携を計画されているとのこと。ともに汗を流して大阪、関西のため頑張っていきたい。
- 2021年のWMG、2025の万博開催に伴い、大阪には多くのインバウンドが来る。国際的にも知名度が高い大阪のブランド力を活用しつつ、大阪から関西広域への回遊につなげていくことが大事。大阪観光局は大阪をハブとする広域周遊ルートを設定され、広域周遊に取り組んでいるが、関西観光本部においても、関西各地や西日本広域への周遊を促す『プラスワントリップキャンペーン』を2020年度中に実施予定。今後も、大阪府、大阪市とともに『ワン関西』合言葉に、インバウンドの関西における広域周遊を促進していきたいと考えているのでよろしく。
- MICEについては昨年6月にG20大阪サミットが開催されたが、大阪での国際会議の開催件数は世界の主要都市と比べても必ずしも多いとは言えないのが現状。今年6月にはIR事業者が決定される予定と伺っているが、今後はIR事業者と一体となってMICE推進していく必要があると思っている。諸外国では行政を中心にインセンティブの付与や、強力な推進体制のもとMICE推進に取り組んでいる。IR実現を見据え、誘致体制を充実させることで関西の先導役として関西全体を盛り上げていく必要があると考えているので、よろしく願います。

■池田 関西経済同友会代表幹事

- インバウンド足もとの数字について。昨年12月の訪日客数は-4%と、3ヶ月連続でのマイナスとなった。主たる要因は韓国だと思うが、中国人観光客がたくさん消費してくださっているので、10月は対前年比2.1%増、11月が21.7%増、12月は18.5%増と、通年では過去最高になった。足元では心配な要素もあるが、今年前半はオリンピックイヤーでもあるし、いろんな諸施策を打っていただいているので、引き続き海外から一人でも多くの方に大阪に来ていただき、周遊・消費していただきたいと思っている。WMG、USJの新アトラクションなどいろんなイベントある。WMGには自分の出身母体のりそな銀行の社員に参加を呼びかけており、大いに盛り上げていきたい。
- MICEについて申し上げる。東京と大阪との大きな違いはビジネス客数の少なさ。世界的な学会やイベントについて、観光局の資料を見て唖然としたが、こういったものが5年前に決まってしまうということであれば、一日も早く、大きな施設で安全安心な大阪をPRし、ビジネス客に多く来てもらうことを考えることが必要だ。パリで万博の勧誘に行ったときに思ったことが大阪の知名度の低さ。世界の都市の中で生き残

っていこうと思うと、MICE施設の誘致、獲得は必須だと思うし、6月にはオペレーターを決定するという事なので、一体となって大阪が今まで以上に盛り上がるよう、知が世界から結集するような、また、大阪から世界に人材を送り出せるような施設を作って、ぜひとも末永い発展に結び付けていっていただきたい。

■松井 大阪市長

- 10年前と比べて、隔世の感があると思っている。しかし、さらに機能強化していかないといけない、マーケティングとMICE誘致についてはいかに人材を確保するかが必要。そのような中、大阪観光局の機能強化も必要と思っている。7年前に大阪府、大阪市、経済界で大阪観光局を設置した当時と比べ、大阪観光局のマンパワー含めさらに強化していく時期に来ていると思う。自主財源獲得に努力いただいているが、大阪観光局としての機能強化のための財源議論もしていかないといけない。観光客が増加する中、行政としても税収の伸びもあるし、大阪府は宿泊税という大きな財源が入ってきているので、さらに伸ばすための投資をしていく時期に来ている。
- MICE施設については、大阪でインテックスを持っているが、税で施設を作って、インテックスなりに国際会議、展示会を行っているものの、現時点ではインテックスの運営については減価償却ができていない。今後は、IRを使って、民間の投資でMICE施設を作ってもらい、大阪にMICEを誘致するためにそれを活用させていただく、ということが世の中の人に伝わっていない。IRといえばカジノ、ということでメディアも批判をするがMICEで世界に勝つためにはIRのMICE施設が必要ということ、官民一体で丁寧に伝え、確実にIR区域指定がされるよう、努力していきたい。

■吉村 大阪府知事

- 外国人観光客数が東京より多いこと、全国トップレベルの伸びということ及び来阪外国人観光客数が過去最高ということで、大阪観光局の取組み、オール大阪での取組みが結果になってきている。今後も、さらに加速させていく必要がある。
- 大阪観光局の財源や人材の話もそうだが、堺市が新たに観光局に入るということも考えていく必要があると思う。堺は、大阪で初めて世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群を有するが、観光面ではポテンシャルを発揮できていないとっており、これを引き上げていくことが大きな課題と思っている。堺市は気球を上げると言っているが、そこに絡めてどう誘客していくかが重要。観光局には堺市からヒトもカネも入ってくると思うが、組織的に実行してほしい。
- 府南部はいろんな魅力的なスポットがあるので、大阪市内に集中している観光客を、世界遺産のある府南部をはじめ府域全体へ誘客していくかが重要。観光局においてもしっかり知恵を絞ってほしい。
- 今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるが、オリンピック・パラリンピックで来た人に大阪へ来てもらい、リピーターになってもらう絶好のチャンス。ラグビーワールドカップでは『てんしば』でパブリックビューイングを実施し、多くの方に大阪に来ていただいた。このように、元々、大阪は魅力ある街なので、東京に来た人の多くは、大阪へ行こうか迷っていると思う。観光局ではオリンピック・パラリンピッ

クの時に大阪へ観光客を呼び込む仕掛けを強めていってほしい。もちろん、大阪府、大阪市も頑張る。

- 市長から税収の話もあったが、税収も伸びている状況と思っている。それをしっかり活用し、観光客を呼び込む取組みを強化していきたい。
- MICEについては、IRが非常に重要になってくると思う。6月には大阪のパートナーを決めるが、そうすると、今後の展望も見えてくる。ラスベガスで行われているCESはじめ、世界規模の国際会議を呼び込むチャンスも生まれてくると思っている。ついでに、IR事業者が決まる前提で、新たなMICE戦略を大阪府、大阪市、大阪観光局、経済界で決めていくことが重要と思う。MICE戦略を定め、ベストな形で戦略的に誘致に取り組んでいけば、大阪のMICEはさらに推進できるのではないかと。
- この一年、これからも大阪の観光戦略に力を入れていきたいのでよろしく。

【自由討議】

■吉村 大阪府知事

- 大阪観光局と大阪商工会議所とで作られる「食創造都市 大阪推進機構」については、ハイエンドな大阪の食を世界に紹介してく取組みだと思う。B級グルメは知名度を得ていると思うが、大阪でポテンシャルが発揮できていないのがハイエンドの食の分野だと思っており、大阪府、大阪市も賛成。ただ、私が思うのは、ミシュランの星制度ではないが、大阪の個店を評価していくような仕組みがあってもよいのではないかと。味だけではなく美しさなど、いろんな要素で評価基準は考えたらよいと思うが、機構自身が信用を得られるものになって来れば、ミシュランに代わる、「大阪が紹介するハイエンドな食の店」という取組みをされてはどうかと思う。

■尾崎 大阪商工会議所会頭

- 大阪版の評価は必要かもしれないが、すでに点数をつけているいろんなものがある。点数目当てに仕掛けをしている人もいるようなので、客観的な点数を付けるというのは感覚的に難しいと思う。店にとって励みになるということなら、大阪観光局が勧める店とか、そういった取組みから始めてもいいかもしれない。また、おいしい個店を増やすことも必要かもしれないが、すそ野を広げる意味では、おいしいものが世界中から大阪・関西に集めることができるのか、食の世界で生きていこうという人が大阪で修行したら一人前の世界に通じるシェフになれるのか、新しい食のレシピが生まれるのか、大阪の人がそれを食べて育てるといったことができれば、そこでポイント制度を使うとよくなるというのであれば、やっていきたい。

■福島 大阪観光局会長

- MICEについては、皆様共通認識かと思う。IRの開業もあるし、都市間競争が激化している中、MICE戦略の策定をしたい。本来であれば大阪観光局で策定したいところだが、マンパワーの問題もあるので大阪府、大阪市、観光局でやっていけたらと思う。

■溝畑 大阪観光局理事長

- 新型コロナウイルスについて簡単に申し上げる。大阪府、大阪市、JNTOと連携し、迅速な情報収集、発信を行っている。ホームページやSNSを活用した情報発信、患者等への対応、観光案内所を使った周知等、行っている。今後も情報が入り次第、オール大阪で共有し、適切な対応をしていきたい。連携ご協力よろしく。

以上